

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和 7 年度
----	---------

前期（中間見直し）

実施内容

自己評価結果

課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容

・健康の増進

個別支援が必要な後期高齢者の訪問指導、通いの場等における健康状態の把握や健康相談を実施した。

健康相談件数※ 112 件

訪問件数※ 96 件

※件数は高齢者以外の成人を含む

足うら健康クラブ：回数 24 回 / 延参加者数 402 人

介護予防出前講座：開催件数 23 件

くすの木クラブ（運動）：回数 185 回 / 延参加者数 4,229 人

くすの木クラブ（脳トレ）：回数 90 回 / 延参加者数 771 人

介護予防サポーター数：196 人

今年度新規登録者数：11 人

自己評価結果

・健康相談件数、訪問件数

【○】

KDBシステムを活用し、生活習慣病重症化リスクが高い後期高齢者、健診・医療・介護の履歴がなく健康状態が不明な後期高齢者、身体的フレイル状態にある後期高齢者を抽出し、保健師が訪問指導や必要なサービスへの接続を行った。国保担当と連携し糖尿病重症化リスクが高い後期高齢者に対する訪問指導を行うなど、現役世代から後期高齢者まで切れ目のない支援を行うことができたため「○」と評価した。

・介護予防事業の実施状況、参加者数

【○】

令和7年度より、足うら健康サロンと介護予防講座を合体し、「介護予防出前講座」と改め、ふれあい・いきいきサロン以外の団体にも健康運動指導士の派遣が可能になった。依頼件数は23件と昨年より増加し、今まで関与したことのない通いの場からの依頼も増加した。また、今年度は地域に住む方が介護予防教室に参加しやすくするため、各地区公民館で「足うら体操教室」を実施した。半数以上の会場で定員以上の参加があり、運動内容や通いやすさ、身近な方が集まれる場について肯定的な意見が多かった。そのため、「○」と評価した。

・介護予防サポーター数

【○】

もともと登録されていた方が要介護状態になる等の理由から名簿から除外された方がいたものの、新規登録者が11名おり、サポーター数は目標値を達成することができた。また、その中から1名、市の介護予防教室でのサポーター活動につながった。養成講座終了後、関心の高いうちに具体的活動につなげるための支援ができたため「○」と評価した。

課題と対応策

・健康の増進

転倒・骨折リスクの高い後期高齢者の重症化予防や健診受診率の低下などが課題となっているため、引き続きハイリスク者だけでなく通いの場などで健康状態の把握や健康教育、健康相談を実施する。

・介護予防事業の実施状況、参加者数

新規利用者は増えつつあるが、延利用者数が減少している事業もあるため、継続しやすい環境の調整や関係機関と連携した介護予防事業の普及啓発に努める。

地域の身近な場である公民館での介護予防教室の機会を増やし、より多くの方の参加に繋がるよう努める。

・介護予防サポーター数

実際に活動しているサポーターが固定されつつあり、全体的にサポーターが高齢化している。そのため、活動意欲の高い人材がいれば早期に活動に繋げるよう努めるとともに、新たに介護予防サポーターの活躍の場を設ける。